

# 私の監事時代

小 西 信 八

お手紙いたゞいて幼稚園のことを話せとのことであつたが、風邪をひいて居るのでお断りしたところ和田さんが度々來られ顔だけでもいゝから見せてくれといふので、こんなに長くなつて居た髪をかつて來たようなわけでもう顔を見せたから引込んでもいいわけですし、話し度いことは豊田さんや下田さんが云つてしまはれたのでもう話すこともありません。

私が幼稚園に關係したのは明治十三年九月で十九年の一月には盲啞學校にうつつてしまつたので足掛七年幼稚園にゐたわけはその頃は、幼稚園と云つても世間では珍重してゐません、が大變に面白かつた。幼稚園にゐる間は年を人が五つばかり少なく勘定してくれてまことに愉快だつたのには出てからは五つばかり餘計に勘定するので不愉快でしかたがありません。

フレール氏が生れたのは天明二年四月二十一日、幼稚園を始めたのが天保十一年（一八四〇）六月二十四日、なくなつたのが嘉永二年（一八五二）六月二十一日で、生れたのも二十一日、死んだのも二十

一日、面白い死にようをしたものと思ふ。

日本にはいつたのが明治九年でフレートベルが幼稚園をひらいたのが天保の十一年、即ち三十七年程ちくれて、日本で幼稚園が創立されたわけです。しかし日本も幼稚園が始つてからもう五十年は過ぎました。日本では死んだのを祭るがこの頃はボツ／＼誕生を祝ふのが流行るがそれはまことに新らしくていゝと思ひます。

さて私がこゝへ來たのは關信三さんが亡くなられてから神津專三郎氏に代つて來たので何にも幼稚園の事は知りません。こゝにいらつしやる豊田さんなどはまことにこはかつたものです。

こゝへ來てから關さんの恩物の書が皆漢語的で一寸子供にはむづかしい、ぬひとり、ししう、かみさしを、しゆし、と云つたようなわけで、これをもつと通俗的にしようと思つて那珂校長に云つて十四年に改めてぬひとり、かみさし等とかへました。やがて大風雨で幼稚園の屋根がもがれてしまつて、すぐ又平な屋根が出來て暖めるのも蒸氣とか瓦斯とか云つたが出來そこなつてストーツになりました。

そこで保姆の官制をたてゝもらひ度いと請求しましたら普通學務局では賛成し、専門學務局では反對、そのわけは幼稚園の本家本元のドイツでも、社會主義を吹きこむといふので政府でとめた事があるからといふのでそれは沙汰にならない方がよろしかろうと云ふので、普通學務局で驚いてやめてしまつたのです。これは文部省が調べ間違ひで、ドイツの政府がとめたのは、フレートベルの兄か弟かその方面の

雑誌を出してゐたので、政府が小さい時からそんな思想を吹き込む爲と思ひ違ひをしたので、よく調べて見たら、フレibelのはそんなものではないとわかつたので専門學務局で更に申し出たが面倒だつたかそのまゝになつて、保姆は小學校の附屬の訓導と同じ位の待遇になつたのです。

その頃外山博士から幼稚園の恩物についてあまりこまか過ぎるといふ小言あり、大きくなれば、細いのをするが、幼稚園でこまかいものをしすぎると云はれた、この外山さんの子供が幼稚園に来てゐて、外山さんの妹がついて来てこの人がなか／＼やかましく、その代りいろ／＼と注意してもらつたこともありす。多くの父兄から幼稚園は何も教へて貰はぬといふ不平がありました。片假名だけ教へようといふ、その爲に級をふやし、小學校と幼稚園との間につなげる級をつくるがいと考へて、級をふやし一番上の級で紙をたゝむとか折るとかを加へ小學校の下の級と、幼稚園の上とが同じになり、幼稚園を出ると小學校の二年にはいれるといふことでした。がこのつなぎの組は意味をなしたと思ひます。この時辻俊次（文部次官）さんの子や吉村寅太郎（學務局）さんの子が幼稚園に来てゐたが幼稚園がすむと、すぐこの近くに小林といふ人の私立の小學校があつてこゝへ行つたものです。すると小林道清といふ人が、私の所にこれ／＼の子が來られるが幼稚園がすんでから又私の所に來るのは子供にはずる分無理だと思ふが私からは辻さんには云ひかねるから、あなたから云つて貰ひ度いと云つた。こんな所では一人でも餘計に弟子を取ろうといふのに爲によくいなと云つて云つたのです。そのまま辻さんに云つたら心

配はない、夕飯迄あづかつてくれ、ばい、のだからと云はれた、幼稚園を教へる場所と思つてゐたのが幼稚園の主意が貫徹しなかつた爲かと思ひます。

先程も幼稚園の唱歌についてお話がありました、メーソン氏は小學校に教へてゐたのです、それ迄は笏拍子をうつてうたつてゐたが子供には面白くなかつた様子で私がメーソンに幼稚園に来て貰ふように頼んで、それからメーソンがヴァイオリンをひいてうたはせると子供が喜んでとんで来て肩やズボンにつかまつて、調子づいてうたふようになりました。その頃伊澤さんが音楽取調所長でアメリカからメーソンをつれて來られました、すると、時々この二人で議論が始つてメーソンが困る、それが幼稚園に來ると大變に嬉しがつたものです、岡倉さんと高嶺夫人とが代るゝ通辯をしてゐましたが、メーソンさんを幼稚園によんでももらつて大變助かつた、議論が始るともてあましたけれどほんとうに助かると云つてゐました。

私の同郷の井上圓了といふ人が記憶術は忘れよう忘れようとすればいゝと云つたので、大事な事はすつかり忘れてしまつた、私も一時病が重かつたがそれは漸く癒つたが今も云つた通り何でもかでも忘れようとしたの幼稚園の事もすつかり忘れてしまひました。